

■事務局稼働日のお知らせ

事務局の稼働日は週1回水曜日となっております。ご不便をおかけいたしますがご了承ください。

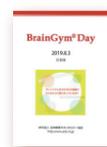
■ビジョンサークル(VC220)の受講条件が変更になりました。

ビジョンサークル講座はブレインジム 101 講座修了者を対象とした中級講座でしたが、今後は事前に受講条件がなく、どなたでも受講が可能な講座と位置づけが変更になりました。ビジョンサークルのインストラクターは、この変更に伴うアップデートを終えています。ブレインジムに興味を持っていただいた方に、様々な教育キネシオロジーの考え方やアプローチに出会っていただける入り口が、また1つ増えました。

■日本限定ブレインジムカード、ブレインジムデイ記録集を販売しています



【1セット】 ¥3,500+税=¥3,850  
 【送料】 1セット 180円(スマートレター)  
 2~8セット 370円(レターパックライト)  
 9セット以上はヤマト便着払いとなります。



2017年  
 2018年  
 2019年版  
 各一冊 1,100円  
 送料 84円

【お問い合わせ】 事務局 jimukyoku@edu-k.jp



顔を思い出せる? part2

天田 武志 (神奈川県)

●<えでゆとし>は、知っているとちょっとお得な豆知識コーナーです

顔 認知の続きの予定ですが、相貌失認について質問がありましたのでちょっと寄り道します。

相貌失認は眼、鼻、耳、口など顔のそれぞれのパーツは認識できるが、顔全体として認識できなくなる状態のことです。頭部の外傷、脳血管障害などにより、側頭連合野が障害されることが原因とされていますが、外傷や病気とは関係なく、先天的に発症するケースもあり、その頻度は100人に1~2人とされています。意外と多いような気がしますが、「人の顔を覚えるのがちょっと苦手」という人から「何度会ってもどうしても人の顔を覚えられない」という人まで、その程度は様々なようです。相貌失認になっても声や着ているもの、体格、振る舞いなどの情報を総合して判断することはできるため、軽い症状の場合は、顔の認識に障害があっても日常生活は何とか送ることができるそうです。ただ、喜怒哀楽などの顔の表情がわかりにくい場合があるため、いわゆる「空気が読めない人」と言われてしまうことがあるようです。人の顔を認識する脳の部位には、顔か顔でないかといった顔の検知と個人識別する紡錘状回、相手の表情や視線を解釈する上側頭溝、相手の表情によって感情情報の処理をする扁桃体などが含まれています。

顔の認識能力は敵と見方を瞬時に判別したり、社会生活を潤滑に送るために進化の過程で発達したと考えられています。

顔の認識領域が機能低下を起こすと相貌失認になるわけですが、それとは逆に人並外れた顔認識能力を持つ人も存在するそうです。そのような人をスーパーレコグナイザーと呼ぶそうで、やはり人口の1~2%ほど存在するのだとか。一般の人は会った相手の20%程度しか顔を覚えておくことができず、スーパーレコグナイザーは80%近い顔を覚えておくことができるとされています。さらにはその記憶が数年以上も持続し、会ったときと見た目が変化していても、出会った相手を見分けることができるそうです。私はちょっとした壁の汚れや光の反射が顔に見えて、びっくりすることが多いのですが、これも顔領域と関係するのでしょうか？

【参考資料】

堀悦郎:顔と身体認知 Toyama Medical Journal Vol.25 No1 (2014)  
 「フェイスズ」-相貌失認 | 熊本大学病院 脳神経内科  
<http://kumadai-neurology.com/archives/445>



Edu-k Journal

vol. 34

Autumn 2021



季刊(年4回発行) 発行: NPO法人日本教育キネシオロジー協会 事務局: 神奈川県横浜市神奈川区台町2-5-701 電話: 045-534-7148

オンライン開催での  
ブレインジム世界大会

NPO法人日本教育キネシオロジー協会 理事長  
 たむら ゆうこ

Breakthroughs International  
 Annual Conference  
 Malaysia 2021  
 29th July - 1st August 2021



世界的にコロナの感染が広がった2020年は、中国で7月に計画されていた世界大会が中止となりました。しかし、今年にはマレーシアのブレインジム協会の主催で、世界中からの参加者がオンラインでつながる、初のバーチャルコンファレンス・世界大会として開催されました。コンファレンスチームの仕事ぶりは、オンラインで大会を開催するノウハウを知るまさに専門家集団という感じでしたし、申し込み受付の後、参加者の地域とマレーシアとの時差をメールで送付するなど、参加者の立場に立った細かな配慮を感じました。

大会は7月29日から8月1日までの4日間でした。9名による基調講演と29名による発表がありました。基調講演は1時間。発表は30分で行われました。

発表者は事前に発表内容をビデオにして提出することを求められていたようです。当日は、司会者により発表者の紹介があり、その後、用意されているビデオが上映されました。ビデオによる発表の後、ライブ参加していた発表者に参加者が質問をする時間をとる、という構成でした。興味深かったのは、フォーラムという時間帯が別があり、そのブロックの発表者が一堂に集まり、追加の質問に答えるという機会が提供されていたことでした。

発表は3時間で一つのブロックになっており、途中で休憩を入れて、一日に3回、合計9時間で提供されました。

参加者は世界中から集まっていたので、時差の関係で特定の時間帯は深夜となり参加が難しいという地域もありました。事前に提出されて

いた発表者のビデオは、4日間の大会中はいつでも見ることができるようになっていて、自分のペースで参加が可能でした。また、当日の様子は録画され、約一か月の間、8月末まで参加者専用のフェイスブックのグループページで公開され、いつでも追加で見ることができるようになっていました。

初めてのバーチャル世界大会ということで、最初の申し込みの段階から、オンラインに対しての戸惑いがありましたが、今までとは違う新しい方法で学びを深め、関係性を築く機会であったと思います。実際に会うことが難しい状況下で、時代に合ったテクノロジーを使い、ブレインジムという手法を通じて世界中から集まった実践者たちと過ごした、濃密な4日間でした。



ブレインジムと共に生きて

インターナショナルファカルティ たむらゆうこ

世界大会では、初日の開会セレモニーの前に、グレンス・レッドピーターさんの発表がありました。グレンスさんは、来日中の講座の中で、ブレインジムエクササイズの一つであるダブル・ドワードルで日記を描いているとおっしゃっていました。その日記はご自身の癌の闘病中にも続けられ、発表では最近の入院期間中に描いた作品を示しながら、ご自身の身体と心の状態を語っていらっしゃいました。力強い眼差しと声で話されていたので決して弱っているようには見えなかったのですが、その日の午後「天使の羽をつけた」と知らされました。その数時間前に事前録画ビデオとはいえ発表を聞いていた私は信じられないという気持ちになりましたが、グレンスさんは本当にブレインジムと共に生きてきた方だったのだな、と思いました。「プロセスを信頼しなさい」というグレンスさんの言葉と共にこれからも活動していきます。ありがとうございました。

感謝を込めて

かいつかなおみ(茨城県)

グレンス先生に初めてお会いしたのは2010年の大阪でした。インストラクターになるためにインデプスを受講したのです。何もわかっていない学び始めの私をグレンス先生が教育キネシオロジーの深い世界に導いてくださいました。ダブル・ドワードルのインストラクタークラスを受講した時、グレンス先生は絵がお好きで、日常でダブル・ドワードルで絵を描いているといい、ご自分のスケッチブックを見せてくれました。講座中にも楽しそうに絵を描いていらっしゃいました。その後も2014年のマリの世界大会、日本でのクリエイティブ・ビジョン、再びダブル・ドワードルの講座でお会いしてきました。いつも穏やかな笑顔で、鮮やかなブルーのシャツがお似合いで、何年たっても変わらないお姿で年を取らない方だなと思っていましたのにも...。まだまだ教えていただきたいことがたくさんあり、同じ世界にいると思うだけで安心を感じていました。グレンス先生には遠く及びませんが、ブレインジムを伝え続けていきます。心からの感謝とご冥福をお祈りいたします。

グレンス・レッドピーター女史はインターナショナル・ファカルティとして、日本のブレインジム黎明期に尽力され、支えてくださいました。